



子どもの笑顔は
保育教諭への
信頼の証



Chiaki Murakami
村上 千晶

昭和女子大学附属昭和こども園
保育教諭

プロフィール

香川県出身

2015年3月

お茶の水女子大学 生活科学部
人間生活学科 生活文化学講座 卒業

2015年4月

社会福祉法人 新栄会
しんえい子ども園 もくもく 保育士

2018年4月

昭和女子大学附属昭和こども園 保育教諭
(0歳児クラス リーダー)

いま、どんなお仕事を されていますか？

昭和女子大学附属昭和こども園で保育教諭をしています。この仕事に就いて5年目になり、現在の職場では0歳児クラスを担当しています。0歳児の子どもたちは、発達が著しく、個人差もあります。毎日じっくり向き合う中でちょっとした表情やしぐさ等から、空腹や不快なこと、「こうしたい」という欲求など言葉では言い表せない様々な子どもたちの思いを汲み取り、丁寧に応えています。そうした日々のコミュニケーションのなかで、愛着や信頼の気持ちが育まれ、保育教諭と子どもの豊かな関係性が築かれていくように思います。なにげないことですが、子どもと目が合い笑顔で応えてくれたとき、やりがいを感じます。子どもの笑顔は保育教諭への信頼の証であり、心が通じ合っているなど感じる、とてもうれしい瞬間です。

保育教諭の仕事はいろいろありますが、な

かでも一緒に遊び、楽しい時間を共有することを大切にしています。遊びを通してさまざまな体験をし、そこから子どもたちは多くのことを学んでいきます。基本的には子どもが好きな遊びを選びとり、それを見守りますが、年齢や遊びの様子を見て、保育教諭から遊びを提案することもあります。0歳児クラスでは、子どもとの触れ合いを多くもち、ゆったりとした温かい雰囲気づくりを心がけています。もう一つ、子どもの生活のリズムを整えることも重要です。家庭と連携し、子どもの健康状態に気をつけながら、園での食事や睡眠といった一日の生活リズムを整えていきます。子どもによってリズムは異なるため、個々の様子に合わせて、十分な栄養と休息をとり、健康で心地よく過ごせるようにしていきます。遊びにしても、生活にしても、保育教諭は子どもたちが健康で、快適に過ごせるように環境づくりをしていくことが重要な仕事だと考えています。

在学中はどんな勉強や 経験をしましたか？

入学したときは将来に対して、まだ明確な目標をもっていませんでした。もともと子どもが好きでしたが、服にも興味があり、生活文化学を主プログラムとして選びました。現在の仕事を目指すようになったのは、大学3年生のときに、お茶大の附属幼稚園ではじめて保育の現場を目の当たりにしてからでした。保育教諭になりたいという願望を抱くようになり、国家試験の勉強をして保育士の資格を取得しました。在学中から保育園でアルバイトやボランティアをして、さまざまな経験を積んだこともよい経験です。

生活文化学の専門科目では、日本や西洋の

服飾の歴史を学びました。なかでも「色」に興味がありました。私は小さいときから、なぜか黄色がとても好きで、持ち物や部屋、服にいたるまで身の回りのものを全て黄色で埋めつけていました。あだ名まで「黄色」だったほどです。しかし服飾史の授業で、ヨーロッパでは黄色にあまりよい意味がもたれていなかったという歴史を知り、少しショックを受けました。そのとき色に対する価値観とは、個人や文化によって大きく異なるものなのだと思感し、さらに色について興味がわきました。そこで、卒業論文ではディズニープリンセスの衣装を色の観点から分析する研究に取り組みました。

学生へ メッセージをお願いします

私の場合、好きなことを選んで取り組んでいった結果、やりたいことが見つかり、それが仕事につながりました。やりたいことを仕事にできるということは、とても幸せなことだと思います。まだまだ勉強は足りませんが、私にとって保育士は天職だと感じています。やりたい仕事だから、もっともっと学びたいと思うし、そのために本を読んだり、大学の公開講座に参加したり、自己研鑽を続けています。みなさんも在学中に好きなことや興味あることを見つけて、やりたい仕事を見つけてもらえたらと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授
難波 知子

わたしのオフタイム

大学の時のサークル仲間と旅行に行ったり、食事に行ったりしています。2か月に1回はディズニーランドに行って気分転換するのも楽しみの一つです。